

本康歯科ニュース



「世界中のどの歯医者に行くよりも、この歯医者に来て良かった！！」と思ってもらえる歯科医院をめざして！！

歯周病の年齢別発症率

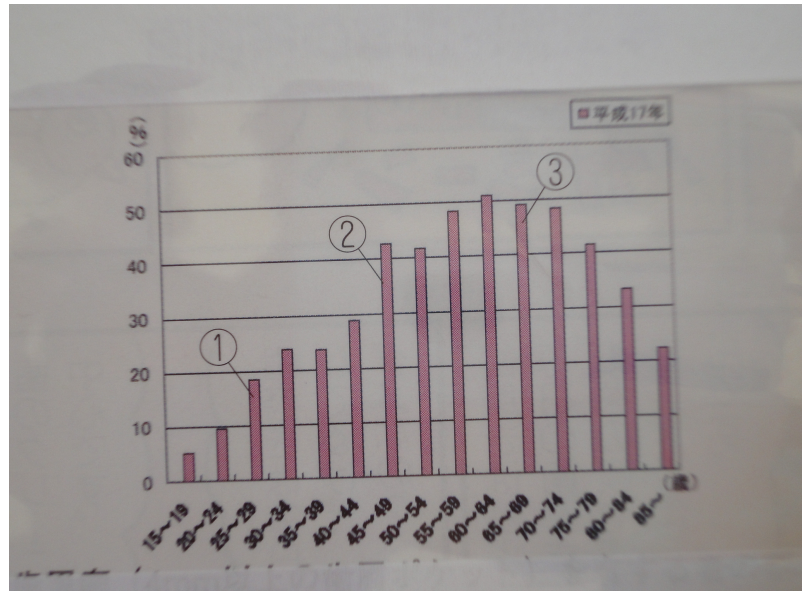
厚生労働省では、国内の歯科保健状況を把握し、今後の歯科保健医療対策の推進に必要な基礎資料を得るため6年間隔で「歯科疾患実態調査」を行っています。

その資料に、年代別の歯周病の状況を表すグラフがあります。グラフから見て分かるように、**歯周病は①20代後半から増加傾向にあり、②40代後半で加速し、③60代後半から歯周病によって歯を失うため、減少していきます。**

よく言われる、お肌の曲がり角が30代なら歯の健康の曲がり角は40代と60代です。

その曲がり角を曲がらないためには20代からの

歯周病の為の定期健診と予防が必要なのです。定期健診で、日常の歯磨きでは落ちない歯石や細菌の膜を除去することで虫歯や歯周病を予防することがポイントです。たとえば、湯のみなどは普段きちんと洗っていても少しずつ茶渋などがついていきます。湯飲みを漂白してきれいにする様に、普段の歯磨きでは落ちない歯の汚れを除去して歯を大切にしていましょ。



歯周病を有する者の割合



お役立ち歯科情報

自分の「口臭」がチェックできる簡単な方法



自分の「口臭」が気になっている人はいませんか？ 実際あるアンケートでは、20~30代の92%が「自分の口臭が気になる」と答えています。そこで今回は、自宅で簡単にできる「口臭のセルフチェック方法」をご紹介します。口臭が気になっている方はぜひ行って下さい。

「ビニール袋」を使って口臭チェック

穴の開いていない小さめの「ビニール袋」を用意し、中に思いっきり息を吹き込んで袋を閉じます。そして、吹き込んだ息の臭いを嗅いでみましょう。そのとき臭いを感じるようなら口臭があるということになります。もし臭いがわかりにくい場合は、家族などに確認してもらうとよいでしょう。

「オキシドール」を使って口臭チェック

「オキシドール」を水で2倍に薄め、口に含んで軽くうがいをして吐き出しましょう。このとき、吐き出したものに「泡」が多く出ていたら口臭がある可能性が高いでしょう。なぜなら、その泡は口臭の元になる食べカスなどが口に残っているため発生しているからです。

オキシドールを使う際の注意点ですが、オキシドールはうがい専門液ではありません。くれぐれも原液を使わず、**水で2倍に薄めたもの**を使いましょう。オキシドールは副作用や毒性がないことから、お口の中の洗浄や殺菌にも使われているため、もし誤って飲んでしまっても気にする必要はありません。

口臭が気になっている方は、ぜひ上の「セルフチェック法」で調べてみて下さいね。